

東日本大震災を経験して

7L1XVU/7 薄田誠之

私は元々東京生まれ東京育ちでアマチュア無線は中学～高校時代に始めて今なお細々と続けている。無線を始める当初から JARL 大井町クラブにはお世話になっている。2008年4月に転勤で宮城県仙台市へ引越しをしていた。仙台では子供が生まれ、嫁さんと子供と3人で暮らしていた。そんな中、2011年3月11日あの東日本大震災が起きた。その様子を自分なりに記録したので、各局の今後の参考になればと思います。

(2011年3月11日 金曜日)

この日は平日でもあり、自宅から徒歩数分の会社内で仕事をしていた。午後の作業を再開したあるとき、突如、小刻みな小さな揺れを感じた。「また地震か?」と思った瞬間に揺れが左右に大きくなり、部屋にあるすべての物が大きく揺れだした。瞬間で尋常ではない揺れだとわかった。慌てて部屋のドアを開けて避難路の確保をし、様子を見た。しかし揺れは一向に小さくならず、むしろどんどん大きくなってきた。部屋にあった長さ6m、重さ500kgの装置がバンバン跳ねて大きく傾いたのが見えた。偶然に棚から落ちてきたヘルメットをかぶり、ドアが閉まらないように支えながら様子を見てみると、館内すべての電灯がちらつき始め、数秒後には停電した。まだ揺れは続いている。危険だと感じて2Fから階段で1Fへ降りて外の駐車場へ避難した。震度6強クラスの揺れは、俗に「立ってられないほどの揺れ」などと表現されるが、意外に立って歩けるほどではあった。会社の仲間が続々と避難してきた。嫁さんの携帯へ連絡するも既につながらない状態であった。このとき携帯に緊急地震速報が届いていたことに初めて気づく。その時刻は揺れを感じ始めたのと同じ時刻であった。

社員全員の避難が確認できたところで、上司に許可を得て、自宅の様子を見に一時帰ることにした。自宅までの間では信号もダウン、誰もが建物から出てきて歩道でしゃがんでいた。みんな慌てていた様子であったが、「大丈夫ですよ」と声をかけながら、重症者がいなかったのものでそのまま自宅へ向かった。自宅は4階建てマンションの3階である。玄関を開けて中を確認すると、台所の食器棚が倒れて水道のレバーを押して水が出っ放しになり台所は床一面に食器の割れた破片と水であふれていた。水を止めるのが精一杯の対応であった。ブラウン管テレビなどもすべて台から飛び、本棚のものは1冊残らず飛び出していた。動けるものはすべて動いていた。嫁さんと子供(1歳半)はどこかへ行っていたようで家の中には居なかった。近くに行っていると思えばすぐに帰ってくると思っていた。家の様子が把握できたので一度会社へ戻った。

会社に戻ると、自宅へ帰れる人は帰宅するようにとの指示が出た。そのまますぐに自宅へ戻った。自宅の近所の小道はあちこちで水が吹いて冠水し、通れない状態であった。このときは「だいぶ水道管が破裂してるな。」と思っていたが、後にこの冠水は津波の影響であることがわかった。この間にも数分に1回は震度3~4クラスの揺れを感じ続けている。外は雪が降りだした。しかも大粒の雪だ。とりあえず明るいうちにと寝場所の確保や懐中電灯の準備をしながら嫁さんの携帯へ電話をするが依然つながらない。

バッテリーが満充電ではないが、ハンディー機（VX-7）を持ち出し、地元消防を傍受してみると「至急、至急、沖合い数百メートル先大きな波が見える！各隊至急退避せよ！」などと聞こえてきた。ただ事ではないと思いながら、自宅は海岸から3~4kmほど離れているので津波は来ないと思っていた。道はいたる所で隆起、陥没があり、塀などの倒壊も多くあった。ラジオの情報に耳を傾けた。すると、「被災地の公衆電話をすべて無料開放していて、171で災害伝言板を利用できる」と案内があった。自宅からすぐの駅前にある公衆電話に向かい、嫁さんの携帯電話に電話をしてみると依然としてつながらない。数人の列ができていたので、独り占めはできない。自宅と公衆電話を何回も往復し、嫁さんの携帯電話や自分の実家、嫁さんの実家、171など色々なところへかけてみるもどこにも繋がらない。数回目にして171へ繋がった。伝言を聞いてみたが入っていないので、自分の伝言を残した。その後も何度と無く各所へ有線電話を試みるが繋がらない。この間の携帯電話も全くどこにも繋がらなかった。数時間後、公衆電話から171へ繋がり、自分の実家から伝言が残っていた。「嫁さんと子供は〇〇小学校に避難している。」との内容であった。やっと居場所がつかめた！心配してくれていた大家さんへ報告し、小学校へ向うことにした。道がどのようになっているかわからないので先ずは自転車で向かった。小学校に着くと、すごい人数の人が集まっていた。嫁さんたちを探し出すのは容易ではなかったが、住所（町会）毎に各教室などに別れていたのが比較的短時間で合流できた。自分は避難所に泊まることもヤブサカではないと思っていたが、とても寝れる状態ではなかった。一旦自宅へ戻り、車で迎えに行った。自宅へ戻ったのは23時を過ぎていた。避難所に居るときから子供は既に寝ていた。自宅の水道は相変わらず出ている。自宅周辺は断水は無かった。カセットコンロ用ガスボンベも少しは買い置きがあったが、いつまで続くかわからないこの状況で無駄に使うことはできなかった。この夜は寝ている間も大きな揺れを常に感じていた。

(2011年3月12日 土曜日)

しっかり寝ることもできず翌朝は早々に起きてしまった。朝6時過ぎると自宅前の国道を仙台消防の車両が先導し、他都府県の消防車両数十台が通過して行った。遠くは鹿児島消防隊も確認できた。このような光景は震災1ヶ月過ぎころまで毎朝続いた。この日は晴れた。家族も揃い、東京の実家とも連絡が取れたので節電のため携帯電話の電源は暫くOFFにすることにした。部屋の片づけを休みながら続けるが、まだ大きな揺れの余震は度々続いている。食材などは少々買い置きがあったが、長期戦に備えるため、食材や生活物資の調達をしに近くのスーパーへ向った。スーパーは長蛇の列で、結局3時間待って10品しか買えなかった。

周囲が明るくなると、色々見えてきて、津波も自宅の手前数百mまで来ていたことに驚いた。町の知らない人も結構声をかけてくる。皆不安なんだろうと感じた。情報収集もかねて色々話をし、励ましあったりした。

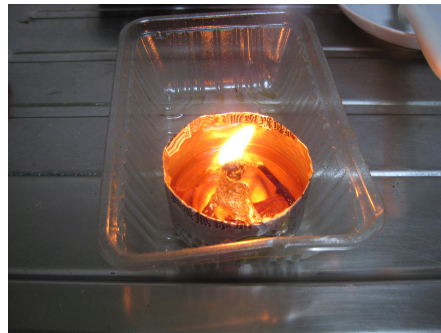


写真1 食用油で灯したランプ

家にサラダ油が大量にあることを思い出し、夜に備えてサラダ油ランプを製作した(写真1参照)。空き缶とティッシュ、アルミホイルで簡単にできるものであったが、夜になると明かりと多少の暖も取れて重宝した。ただし、定期的な換気は忘れてはならなかった。子供も寒そうではあったが、普段と違う雰囲気喜んでいた。

(2011年3月13日 日曜日)

この日も晴れていた。部屋の片付けもだいぶ落ち着いてきた。公衆電話から実家への通話を試みるも、なかなか繋がらなかった。公衆電話を待つ列からは仙台港の石油工場の火災の黒鉛がはっきりと確認できた。

自宅近くに停めていたバイクはサイドスタンドを出したままそれを軸に左側へ倒れ、シフトペダル、ウインカーなどが破損し、動けない状態にあることは地震当日に確認していた。油漏れ等が無かったので、とりあえずそのままにしておいた。そのバイクのバッテリーが使えることを思い出し、バイクを引き起こしてバッテリーを外した。それを自宅のリ

グ (FT-897 50W 機) につなぎ、7MHz をワッチしてみた。すると 7.043MHz で JA3RL がキー局を務め、7 エリア方面の情報収集を行っているのが聞こえた。満充電ではないバッテリーを使い切ってしまったら終わりなので、RF POWER を 20W 位にして「7 エリア方面の局どうぞ」の声に应答した。当局の HF アンテナはモバイルホイップである上にアースを金網で散らしている (写真 2、写真 3 参照) ので、50W で何度呼んでも应答が無いのが普段であったが、今回は JA3RL には届いていないようであったが、JHOMHE 局がすかさず中継に入って頂き、当局周辺のライフラインの状況などを報告できた。JA3RL でグーグル安否情報へ名前を載せて頂けると言う事で、お願いをした。通信手段が何も無い中でアマチュア無線だけが唯一普段どおりに通じ、ホントに救われた気がした。JA3RL からは当局周辺の VU 帯の JA7RL ほかの非常通信周波数の開局状況を教えて欲しいと言われ、145.50MHz と 433.50MHz で声を出したが、JA7RL とは通じず、石巻へ向う途中で足止めになっていたモバイル局 JJ7KNC / 7 局と周辺の状況を交換することができた。JA7RL と交信ができなかったため、バッテリー節約のため、JA3RL へはこの状況は報告しなかった。バッテリー節約のため、以上で無線機からバッテリーを外した。

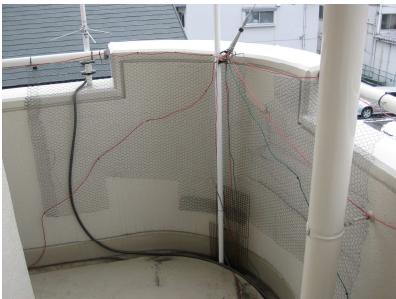


写真 2 金網で散らしているアース



写真 3 当局の HF アンテナ

自宅から数 km はなれたスーパーがやっているという情報を聞きつけ、行ってみることにした。着いてみると数百 m にわたって長蛇の列ができていた。子供をつれてこの列に並ぶのは困難と思い、あきらめて自宅に戻った。

これまでの食事はパンや缶詰やお菓子など調理を必要としないものを食べていたが、今日は久しぶりに焼きうどんを作った。普段にも増してとてもおいしかった。

(2011年3月14日～復電まで)

平日の午前中は会社内で復旧に向けての作業を行っていた。すべての設備は移動し、再度点検の必要があった。停電が復旧すると一気に電流が流れ危険なので、会社内のすべてのブレーカーを落として復電に備えた。自宅でも同じくブレーカーを落としておいた。ただし、復電したときにわかるように台所の蛍光灯だけ常にONにし、復旧を待った。

あるとき、会社での作業中に「全員集合」がかかった。津波警報が出たとのことだった。まだ11時ころであったが解散になり自宅へ戻った。前回の津波が来た際(キワ)の道路では消防や自衛隊が避難誘導をしていた。自宅に戻って暫く経っても何もおきなかった。次の日に会社へ行ってみると、昨日の警報を気象庁は出してなかったということだった。情報も相当錯綜していると感じた。

仙台駅周辺などの都市部は停電の復旧が早かったみたいだった。多分復電した地域がどんどん広がっているのか、携帯電話のアンテナ表示は徐々に増してきたが、通話料が多いせいか、昼間はほぼ繋がらなかった。夜中や明け方などは時々繋がるようになってきた。

相変わらずスーパーやガソリンスタンドには長蛇の列ができていた。自分の車の燃料は半分くらいあったが、車の使用は暫く控えた。自転車で周囲を回り情報収集をしているあるとき。弁当屋から人が出てくるのが見えた。お店に入ってみると、牛丼のみ販売しているとのことだった。店の人に聞くと、冷蔵庫は締め切っていれば案外低温を保持できるとし、ガスはプロパンなので、調理ができるとのことだった。数個購入し、久しぶりにしっかりしたご飯が食べれた。とてもありがたかった。

余震もだいぶ収まってきたので、子供を背負って自転車で仙台港方面を見てくることにした。自宅からほんの数百mのところまで車やコンテナが流されてきていたり、電柱は柱上トランスが頭のすぐ上まで来るぐらい沈んでいたり、仙台港アウトレット周辺は想像を絶する世界であった。普段から良く行っているところであったので、一歩間違っていたら間違いなく被害にあっていたであろうと思うとぞっとした。

3/16になると自宅前の国道の街頭が明るく灯った。「お、電気来た!」と思い、自宅のブレーカーを確認するも、まだ復電していない。結局3/17の夜に自宅は復電した。子供も寒い中、唇を青くして限界かと思っていたが、エアコンが使える事となり何とか救われた。またいつ停電するかもわからないので、携帯電話や、ハンディー機、バイクのバッテリーなど充電できるものに充電をしておいた。自宅固定電話もネットも復旧したのでご心配を頂いた各所へ連絡をした。約1週間ぶりにテレビを見るとすごい映像ばかり流れてきた。いままで自宅周辺しか見えていなかったが、今回の災害の大きさを改めて知った。

(2011年3月18日～)

その後、佐川急便にて営業所留めで発送が可能との情報を得たので、実家に連絡し、必要なものを送ってもらった。中でも一番欲しかったのは卓上IHヒーターだ。ガスがまだ来ていないので、電気で調理ができるものが欲しかった。これが到着してからはちゃんとしたものが食べられるようになった。

自宅復電から2日遅れて会社社屋も復電した。海岸に近づくにつれて復電は遅いようだ。自宅はまだガスがこないのお風呂が入れない。会社は電気温水器のシャワーがあったので、ガス復旧までこれを借りた。とても助かった。

3月下旬になるとガソリンスタンドの列もそれほどではなくなってきたので、久々に車に燃料を入れ、無くなっていた灯油も購入でき、ファンヒーターも稼働できた。

ガスの復旧は当初1ヶ月はかかると言っていたが、4月初旬に復旧できた。ガスが復旧したことでライフラインは完全復旧できた。

最後になりましたが、今回の災害で被害に遭われた方々に心からお悔やみ申し上げます。たまたま自分たちは人命に関わる被害を受けることが無かったが、そうであっても何の疑いももてない災害でした。自衛隊・警察・消防をはじめ、役所・電気・ガス・水道・道路その他たくさんの方たちに支援を頂き、当初の発表よりもかなり早くライフラインの復旧など、元の生活に近い状態に戻ることができました。通信手段としてはアマチュア無線だけが普段どおり通じました。災害時の通信手段としての重要性を改めて思い知りました。これを読まれた各局の災害への備えの参考になれば幸いです。